

# 2024年度青山学院大学一般選抜（個別学部日程）

国際政治経済学部国際経済学科

## 論述・総合問題

【マーク式の正解】 □数字はマーク式の解答番号欄、丸数字は正解。

I	1	①	2	①	3	③	4	①	5	②
	6	③								
II	7	①	8	①	9	①	10	①	11	①
	12	①	13	①	14	①	15	①	16	①
III	17	③								

### 【記述式問題】

III	(2)	<p>〈出題の意図・ねらい〉 日本の生産年齢人口は減ったと考えられる。日本の実質GDPは約30%増加しているのに対し、日本の生産年齢人口1人あたり実質GDPは約50%増加している。実質GDPの増加率より生産年齢人口1人あたり実質GDPの増加率の方が大きいのは、生産年齢人口が減ったからである。</p>
	(3)	<p>〈出題の意図・ねらい〉 実質GDPについては日本よりも米国の方が大きく伸びたにも関わらず、生産年齢人口1人あたり実質GDPについては日米間でそれほど差がないのは、日本の生産年齢人口が減少する一方で米国の生産年齢人口は増加したからである。</p>
IV		<p>〈出題の意図・ねらい〉 パネル1はほぼ無相関を示唆し、パネル2は非常に弱い負の相関を示唆している。「書く」能力や「話す」能力の使用頻度が高い仕事ほど将来AIに代替される可能性が高くなるとは言えない。</p>